

ハサミを置いた美容師

2025. 9. 30

美容師がハサミを置いてしまえば引退であろう。ところが、彼はまだまだ若い。にもかかわらずハサミを置いてしまった。正確には、ハサミを置いた社長である。彼は、私の部活動の教え子である。

現在は、福島市と郡山市に9店舗を展開する美容室を運営している。高校を卒業し、専門学校に行き、美容師となった。ここまではよくある話である。2005年に、福島市で独立し店を出した。このお店には行ったことがある。こじんまりした店舗だった。

ここからがすごかった。店舗が増えていった。あれよあれよという間に、会社は急成長を遂げていった。2015年には、現場を引退し、美容室経営はリモート化している。2016年からは、コンサル事業を始めた。2018年には、「脱・職人経営」を出版している。主宰している「脱職人アカデミー」は会員登録者数3500名を超えている。

中学時代の彼から今の姿が想像できているのであれば、この紙面で取り上げたりはしない。全くの逆だった。控えめで優しい人物像は変わってはいない。彼には、才能、いや才覚があったのだろう。それは、テニスコートではわからなかった。

まだまだ若い、大成功を収めている。いや、彼からしたらまだまだ大成功ではないのかもしれない。これからも、成長していくことだろう。会社も大きくなっていくが、彼は社長としても人としても大きくなっていくのではなかろうか。

彼は、ガツガツしていない。ゆるくがんばっている。サボり魔社長ともいつている。「仕事は人生で一番贅沢な遊び」という言葉も残している。きっと、ものの見方や考え方が違うのである。そこから、様々な発想が生まれてくるのだろう。

ここまでくるには、努力を重ね、かなりの苦勞をしてきているはずである。幾たびもの判断や決断の機会があったことだろう。きっと、経営にはコツのようなものがあるに違いない。ポイントといってもよいかもしれない。あとは、タイミングである。どんなにすばらしいアイディアでも、タイミングを逃すと、その力を発揮することができずに終わってしまう。このポイントとタイミングをつかむことに長けていることが、才覚があるということなのであるまいか。

私は、ハサミを置いた社長のお店にはいつていない。家人はずっと通っている。もちろん担当は、社長ではない方である。このところ、立て続けに彼の同級生に会う機会があった。そのため、彼のことを書くことにした。これからも彼の活躍から目を離すことはできない。